

回答No.	現在貴事業所において、提供しているサービスをお答えください。(複数回答可)。	現在貴事業所において、精神障がいのある方への支援を行っていますか。	(Q2で「はい」と答えた場合) 精神障がいのある方への支援を行うに際し、サービス提供の際に特に時間やマンパワーを要した点があればお答えください。(自由記載)	(Q2で「はい」と答えた場合) 精神障がいのある方への支援を行うにあたり、工夫されている点、特に力を入れている点があればお答えください。(自由記載)	(Q2で「いいえ」と答えた場合) 精神障がいのある方へ支援を行わない(行えない)理由などがあればお答えください。(自由記載)	(Q2で「いいえ」と答えた場合) 今後精神障がいのある方への支援を行うこととなった場合、どのような支援(補助金、支援制度等)があれば対応できるか意見がありましたらお答えください。(自由記載)
1	7 各種通所事業	いいえ			児童が対象の事業 希望される方がいない	
2	3 ヘルパー派遣(通院の介助、身体介護、乗降介助あり) 8 グループホーム事業	はい	心の声を逃さないように様子観察を強化とスタッフとの相性を考慮して担当の変更もしている	いろいろな形でコミュニケーションをとりご本人の安心を最優先している		
3	5 外出支援(移動支援、同行援護、行動援護 など)	いいえ				
4	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援	いいえ				
5	10 その他	いいえ				
6	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援	いいえ			依頼がない。	精神障がい者が利用できる介護保険外のサービスに関する公的なサポート。
7	10 その他	いいえ				
8	7 各種通所事業	いいえ				
9	1 ヘルパー派遣(身体介護あり) 2 ヘルパー派遣(家事の援助) 3 ヘルパー派遣(通院の介助、身体介護、乗降介助あり) 4 ヘルパー派遣(通院の介助、同行のみ)	はい	自宅の転居が決まったご利用者様に対して、段階的に物の整理をヘルパーと共に行っていたが、その方の被害妄想等があり、スムーズに作業が進行しなかった為、結果引越前2日間職員4~5名派遣をして朝から夜まで作業をしたことがあった。また別の精神疾患の方で自身のスケジュールが組めず、ヘルパーのケアが直前でキャンセルとなった。『今からケアをお願いしたい』といった対応求められることが多くあり、ヘルパーの調整や連絡業務、また急なヘルパー派遣を余儀なくされることがあった。	日頃からの関係性作りには特に意識をしている。出来る事と出来ない事を明確に最初にお伝えし、ご本人様の困り事が発生した時には一緒に考えて解決に向かって種々の機関を提案したりといった事をする様にしている。支援相談員さんが付いている方の場合、特に連携を密に行い、事業所のみで色々な課題や対応をしないようにしている。		
10	5 外出支援(移動支援、同行援護、行動援護 など)	いいえ				
11	8 グループホーム事業	いいえ				
12	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援	いいえ				
13	7 各種通所事業	いいえ				
14	8 グループホーム事業	いいえ				
15	8 グループホーム事業	いいえ				
16	7 各種通所事業	いいえ				
17	9 訪問看護事業	いいえ				
18	8 グループホーム事業	はい	思い込みによる苦情。しっかりとしている判断なのかの見極め。			
19	9 訪問看護事業	いいえ				
20	1 ヘルパー派遣(身体介護あり) 2 ヘルパー派遣(家事の援助) 4 ヘルパー派遣(通院の介助、同行のみ)	いいえ			人員不足のため	働き手が増えれば検討しますが、今の状況で手一杯です。
21	10 その他	いいえ			該当する利用者がいないため	緊急時の受診等の対応が迅速にできること
22	7 各種通所事業	いいえ			対象者不在	対象者の状態により、介護保険制度内で可能であれば支援は不要
23	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援	はい	利用者の要望通り(こだわり)にサービス提供が困難な場合の調整。説明しても理解や同意が得られない。事業所としては改善しなければ提供ができない。新しい事業所探し。何度も話をかけてくるため互対応。	できないことは何度も説明する。一人で対応せず、一緒に対応や説明する人(支援者)を増やす。		
24	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援	はい	学習能力が低い事が多くあり、ヘルパーに対する苦情めいた話を繰り返し、何百回となく繰り返し説明する必要がある。電話連絡を曜日や時間に関係なくする事や、その場で思いついた事を話して周囲を混乱させる事がほぼ日常的にある。特に体調面での不定愁訴に関しては、『オオカミ少年化』する感を抱いている。	MCSでグループ化して、情報交換に努めている。		
25	8 グループホーム事業	はい				
26	5 外出支援(移動支援、同行援護、行動援護 など)	いいえ				
27	8 グループホーム事業	いいえ			現在のご入居者様に精神障がいの方がたまたまいらっしゃらないため。	
28	8 グループホーム事業	はい	入院を促しても入院してくれず、病状が悪化してしまうことがあります。	症状が悪化した場合には早い段階で頓服薬を飲んでもらう。		
29	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援	はい	本人の言い分、家族の言い分それぞれを聞き取る時間を要する。医療機関、警察、地域包括、各サービス事業所との連携を図るも解決には直結しにくい。	傾聴し話が脱線した時は、話の交通整理を行なう。		

回答No.	現在貴事業所において、提供しているサービスをお答えください。(複数回答可)。	現在貴事業所において、精神障がいのある方への支援を行っていますか。	(Q2で「はい」と答えた場合) 精神障がいのある方への支援を行うに際し、サービス提供の際に特に時間やマンパワーを要した点があればお答えください。(自由記載)	(Q2で「はい」と答えた場合) 精神障がいのある方への支援を行うにあたり、工夫されている点、特に力を入れている点があればお答えください。(自由記載)	(Q2で「いいえ」と答えた場合) 精神障がいのある方へ支援を行わない(行えない)理由などがあればお答えください。(自由記載)	(Q2で「いいえ」と答えた場合) 今後精神障がいのある方への支援を行うこととなった場合、どのような支援(補助金、支援制度等)があれば対応できるか意見がありましたらお答えください。(自由記載)
30	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援	いいえ				
31	7 各種通所事業	はい	欠席の際の当日の精神状態の確認。複数回にわたる本人が気になることの疑問への回答。当人の対応、退所等について相談支援事業所、役所、グループホームとの協議による打ち合わせ。	管理者のみによる印象や出来事についての考察だけに頼らず、関係している支援員とも交え情報共有を行うこと。相談支援事業所、グループホーム、役所との連携。職員会議で利用者支援の情報共有。研修に参加し、メンタルヘルスについての知見を学ぶ。		
32	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援 7 各種通所事業	はい	ヘルパーをみつめることが大変(精神障害に関わらず、全体的にヘルパー不足という点がある)	支援・提案と指導は違うので、その点の配慮は重要。本人の気づけない生活環境の配慮点については、連携事業所と相談しながらご本人様へ提案をさせていただく。		
33	7 各種通所事業	はい	不安定になることが多いため、個別対応が必要です。			
34	8 グループホーム事業	いいえ				
35	1 ヘルパー派遣(身体介護あり) 2 ヘルパー派遣(家事の援助) 3 ヘルパー派遣(通院の介助、身体介護、乗降介助あり) 4 ヘルパー派遣(通院の介助、同行のみ) 5 外出支援(移動支援、同行支援、行動支援 など)	はい	利用者様のこだわりへの対応。共有できない価値観の強要。会話の中断。家族対応。	職員の負担軽減(感)を減らしていく点。ストレスヒアリング		
36	7 各種通所事業	いいえ			利用者が、ほぼ知的障がい者のため、精神障がい者の方に対応できる専門知識を持った職員がいないため。	
37	7 各種通所事業	いいえ			知的障害のある方々の事業所であり、精神障害のある方に対応できる専門の知識を持った職員がいないため。	
38	2 ヘルパー派遣(家事の援助) 4 ヘルパー派遣(通院の介助、同行のみ) 1 ヘルパー派遣(身体介護あり) 3 ヘルパー派遣(通院の介助、身体介護、乗降介助あり) 5 外出支援(移動支援、同行支援、行動支援 など)	はい	事業所に電話をかけてくることが多く、その対応に時間がかかる。こだわりが強く、通院同行や買い物同行等出発までに時間がかかる	外出時のこだわり、に関しては、事前(前日)に確認する。当日も本人に指差し確認を行ってもらう。電話に関しては、時間は取られてしまうが話すことで相手が安心する、ということもありできる限り対応してしまっている。		
39	1 ヘルパー派遣(身体介護あり) 2 ヘルパー派遣(家事の援助) 3 ヘルパー派遣(通院の介助、身体介護、乗降介助あり) 5 外出支援(移動支援、同行支援、行動支援 など)	はい				
40	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援	はい	・通院が途切れてしまいがちな方には、できるだけ診察に付き添うようにしている。・サービスに対する理解がなかなか得られない時があり、必要なサービスを開始するのに時間がかかる。・会話が違う方向へいってしまうので、話をまとめるのに時間がかかる。	・本人の特性や妄想についてサービス担当者間で共有し、対応が統一できるように留意している。・傾聴はするが、淡々と対応するようにしている。・本人が大切にしていることを理解するように努めている。		
41	8 グループホーム事業	いいえ				
42	10 その他	いいえ			サービスの種別的に該当ケースがないため。	
43	8 グループホーム事業	いいえ				
44	7 各種通所事業	いいえ			今のところ、精神科に定期通院している利用者はいませんが、手帳の所持については全員愛の手帳のみのため、行っていないという事です。事業所として、受け入れ・支援はする考えはあります。	人数によって補助金の支援や専門研修の実施などがあればと思います。
45	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援	はい	訪問時間を長めに設定して対応	本人の話を全部聞いてから確認のためどうしたいかを一つづつに分けて行う		
46	6 計画相談支援、ケアマネジメント支援 7 各種通所事業 10 その他	はい	・児童への支援では主なやりとりが保護者となるが、保護者に精神疾患がある際には保護者による児童への対応の工夫や改善に取り組みにくく、本来の目的である児童本人への支援が困難となる場合がある。・精神疾患のある保護者の支援先も関係機関となるため、関係する機関が多くなり、連絡調整も多くなる。	・簡潔にお伝えする。・メモなどを活用する。・こまめに連絡する。		
47	7 各種通所事業	はい	マンパワーを要したことはない。周辺症状への理解や、他利用者への配慮に時間を要する	ご本人への理解と、要介護者との集団参加が可能になるか、精神障がいの程度と影響範囲の判断。		
48	8 グループホーム事業	いいえ			認知症対応型共同生活介護ということで認知症の症状をお持ちの方の支援をしております。入居された方で明確に精神疾患の診断を受けている方はいらっしゃらないので便宜上【いいえ】と回答させて頂きました。ただ介護職員目線で見たところ、統合失調症のような症状を抱えている方、躁鬱のような症状を抱えている方、その他さまざまなことを目にしてきましたので、特段、精神障害のある方に支援ができないとは考えておりません。どのような方でも(認知症なのか、精神障害なのかに関わらず)、その方の抱えている困りごとに関わりながら日常生活を助けていくのが介護・福祉と考えております。	グループホームでは定員の関係もありなかなか多くの方に支援を提供することが難しいですが、令和6年度から定期巡回・随時対応型訪問介護看護を立ち上げていきますので、(要介護の判定が必要となりますが) 今後は支援が可能と考えております。
49	7 各種通所事業	いいえ			未就学児対象の施設の為、精神障がいとの診断を受け手ける児童はいません。	
50	7 各種通所事業	はい	作業後の相談支援。また、調子悪化時等の相談等。通院同行。	相談を大事にしている。		

回答No.	現在貴事業所において、提供しているサービスをお答えください。(複数回答可)。	現在貴事業所において、精神障がいのある方への支援を行っていますか。	(Q2で「はい」と答えた場合) 精神障がいのある方への支援を行うに際し、サービス提供の際に特に時間やマンパワーを要した点があればお答えください。(自由記載)	(Q2で「はい」と答えた場合) 精神障がいのある方への支援を行うにあたり、工夫されている点、特に力を入れている点があればお答えください。(自由記載)	(Q2で「いいえ」と答えた場合) 精神障がいのある方への支援を行わない(行えない)理由などがあればお答えください。(自由記載)	(Q2で「いいえ」と答えた場合) 今後精神障がいのある方への支援を行うこととなった場合、どのような支援(補助金、支援制度等)があれば対応できるか意見がありましたらお答えください。(自由記載)
51	2 ヘルパー派遣(家事の援助) 1 ヘルパー派遣(身体介護あり) 6 計画相談支援、ケアマネジメント支援 4 ヘルパー派遣(通院の介助、同行のみ) 5 外出支援(移動支援、同行援護、行動援護など)	はい	もめ事の解決のためのサービスの終了	市の担当ケースワーカーや担当課幹部との連携や情報共有。		
52	7 各種通所事業	はい	作業に取り組むこと以前に、自宅での生活環境や気持ちの移り変わりなどの現状の聞き取りからスタートすることが多い。目によっては気持ちの浮き沈みがあり通所することが困難な時がある。その場合、電話連絡を行うが応答も難しく、メールを利用して確認している。だが、これらの対応も難しい場合もあるのが現状。	自宅での生活環境や気持ちの移り変わりなどの現状の聞き取り。内容は作業所で対応できる範囲を超えている事務の相談も多く、身寄りがない場合や周りに支援者が少ない場合、様々な問題へと発展する可能性がある。		
53	7 各種通所事業 8 グループホーム事業 6 計画相談支援、ケアマネジメント支援	いいえ			精神障がい者としての障がいでは支援方法が異なるため、適切な支援が難しいと考えられるため。	専門職員の派遣による職員養成を長期に行っていただくような制度の構築と、過配置による人員確保等の補助金制度があれば検討したい。
54	1 ヘルパー派遣(身体介護あり) 2 ヘルパー派遣(家事の援助) 4 ヘルパー派遣(通院の介助、同行のみ)	いいえ			人材不足が深刻。職員の高齢化も伴い、困難なケースも多い	精神障がいへの理解を深めるための研修。実際にケアに当たる職員へ還元されるような補助金や支援制度。
55	8 グループホーム事業 7 各種通所事業 10 その他	はい	GH(通過型)の場合-入居-卒業を繰り返す場所であり、常に違う入居者(精神障がいのある方)ため、落ち着く暇がないサービスである。しかしながら、精神障がいのある方はADLは問題ない為、支援区分が低い傾向があり、報酬単価が、知的・身体と比べ低い為、職員配置基準も低く、基本的にマンパワーは他障害に比べ少ない傾向がある。また、ほぼ入院中の方が退院と同時に入居されるので、まだ、精神症状が落ち着いていない・精神薬の必要性がわかっていない、まだ薬の調整が必要な方等の場合もあり、なるべく安定した方にご入居していただきたいものの、空室が続くと経営難になるため、ある程度の状況確認でご入居の方向になる場合がほとんどである。入居までに、見学・試泊・書類の提出・計画相談の手配・認定調査と審査会・受給者証の発行・顧問面談・支援者ご家族との調整等があり、医療機関・自治体の所要時間も入り入居までに膨大な時間がかかる。また入居後も下記①～④の様なこともある場合があり、障害状況の把握及びご本人が安定する(馴染む)まで最低約一年は生活全般・本人への注視・内部・外部との情報共有強化を図っている。当方は通過型の為、3年程度での卒業であり、アパートを探すため不動産仲間に数日、引越しまでに行うこともサポートも何日も行方。毎回、アパートが借りれるのか、支援者として不安がある(精神疾患では基本賃賃してはくれないため)。卒業時は住まいの確保のみならず、卒業前に卒業後の生活方法の確認も関係機関と行うことも多い。【特にマンパワー・時間要した件】①精神症状の悪化により、土日祝を含め管理者等当方スタッフが、居室訪問や状況により警察・家族・関係者等に連絡し連携。突発的な対応が必要な時は、どこに・誰に連絡するのかなど支援対策を立てることが、管理者又はそれに準ずるものに求められており、また休みであっても連絡、対応する必要がある場合がある。②特に年末・年始は通院先や訪問看護も休みであり、GHは365日、年末年始も日中は人員配置しており、その確保もたいへんである。安定している場合でも、何かあれば、管理者への連絡・指示対応となる。③過去精神症状の悪化で入院が必要な場合、必要と判断した時間から入院するまで夜間8時間3名体制で入院対応したことがある。通院先への連絡-担当医不在で断り-ひまわり電話-ようやく親族へ電話つながり入院同意-民間救急車の手配等-病院まで同行④GHは24時間の責任がある場所であり、事故・トラブル・精神症状悪化を防ぐために、日頃より、支援者の観察・情報共有が欠かせない。資質の揃ったマンパワーでない、且、見落としにより、事故・トラブル・精神症状悪化に気づかないこともある可能性がある。特に一年未満は注意が必要であるため、日頃より、外来・服薬状況、訪問看護導入の場合も、情報共有していないと、バラバラな支援となりご本人の精神症状の再燃・悪化を防ぐことができないこともある。情報共有することと自体に手間と時間がかかる(関係者不在で何度も荷電し、ようやく取り取りし記録の記入を行うなど)。関係機関(特に通院先の病院)とトラブル等で連絡するにも、担当ワーカーがなかなかつながらず、何度も荷電することに時間がかかることもある。(病院はメール不可。電話がほとんど)	B型 精神障がいの方は精神科治療(向精神薬)が必須・基本であるため、定期的な通院の確認(通院日・処方せんの写し・外来後報告記入)をしている。よって外来に確実に通院され、かつその薬がご本人に合っていれば、決められた薬を確実に服薬し、食事・睡眠・日中の活動(当方事業所又は他の活動)が整ってあれば、大きな変化がなければ悪化まで至らないことが多い。困りごとと相談-専用の記入用紙にご記入いただき、支援者で共有確認後対応している。作業-障害特性やその方の希望も合わせ、その方に合う作業がわかると、その作業を繰り返し行うことで、生活リズムが維持され、休まないことで自信を持たれる方が多い様。食事も年度末にお渡ししている。(賞金をきっかけに自信が働き就労された方もおられる。) 食事(備りが多い方が多かったため、バランスの取れた弁当を作業実施され希望される方には無料で提供している。一食きちんとした食事をとっていることも、欠席が少ないことにつながっているかもしれない。レクリエーションの企画-コロナで減っていたレクリエーションを少しずつ増やしている最中である。(完全個室での食事ラオケ付忘年会や花見・梅見など) GH 外来、日中活動、見守り、訪問看護の導入、必要に応じて権利擁護(金銭管理)の導入。GHだけで抱えないこと。移行-外部訓練-外部の職業評価を導入すること。⑤就職し、定着支援も終え、地元障害者就労センターに引き継ぐ時も外部の職業評価の書類はその方の基本情報であり、大変重要である。		
56	7 各種通所事業	はい	当作業所では、小金井市から委託された①生ごみ乾燥物回収運搬作業や、②公園・砂場清掃作業などがあり、①の場合は午前と午後作業があり、利用者さんには補助的作業をしていただき、車の運転や乾燥物の運びを主に職員が担っている。②については原則毎月2回(落葉回収を伴う)月、月3～4回)作業があり、職員と利用者さんともに清掃に携わっている。またゆづバックなどの紙袋製作作業では、利用者さんはそれぞれできる工程を作業していただき、その工程ができるために職員が他の工程作業をしなければならぬ。このように各作業に対して職員の時間やマンパワーが必要とされている。	月に一度メンバーミーティングを開催。その際に利用者さんからの意見や相談を受ける。また同日、ミーティング後に顧問医も見て利用者さんからの相談などを受けている。その他、何か相談事があればその都度、口頭または電話などで受けている。また月に1度当施設内で昼食会を開いたり、お花見会や何回かボウリングやカラオケなど施設の外のレクリエーションを行い、利用者さん同士、職員とのコミュニケーションを図ったりしている。あとは適宜、利用者さんの顔色や体調にも気をかけ、食事の話や生活面での留意点など声掛けをするようにしている。		

回答No.	現在貴事業所において、提供しているサービスをお答えください（複数回答可）。	現在貴事業所において、精神障がいのある方への支援を行っていますか。	〔Q2で「はい」と答えた場合〕精神障がいのある方への支援を行うに際し、サービス提供の際に特に時間やマンパワーを要した点があればお答えください。（自由記載）	〔Q2で「はい」と答えた場合〕精神障がいのある方への支援を行うにあたり、工夫されている点、特に力を入れている点があればお答えください。（自由記載）	〔Q2で「いいえ」と答えた場合〕精神障がいのある方へ支援を行わない（行えない）理由などがあればお答えください。（自由記載）	〔Q2で「いいえ」と答えた場合〕今後精神障がいのある方への支援を行うこととなった場合、どのような支援（補助金、支援制度等）があれば対応できるか意見がありましたらお答えください。（自由記載）
57	7 各種通所事業	はい	全員が精神障害を有するので、常に使ってはいるが、①特に本人の困りごと相談②利用者同士のもめごと③不穏な状態の時の利用者対応の3つ。	個々の利用者特性（病状）に合わせた対応。急な休みや早退、遅刻に柔軟に対応する。		
58	7 各種通所事業	はい	自傷行為、触法行為、依存症による生活の破綻など、就労支援とはまた別方向の制御不能な行動・感情に対して向き合っていくための時間、安全を守っていくための措置、家族支援や多職種連携のためのマンパワーを要している。	過酷な環境で育ったことや、障害が周囲に理解されなかったことが原因で、幼いころからの我慢が習慣になり、自分自身の感情に気づけない、自分の好き嫌いが分からない方に対して、ネガティブ感情の表出、そこからの内省と自己理解、適切な感情表現ができるように導くための各種プログラムを行っている。		